



単位型投信 / 内外 / 債券

## 国際金融機関債ファンド(為替ヘッジあり) プラス2016-03 ポートフォリオ構築のお知らせ

情報提供資料  
(受益者限定資料)

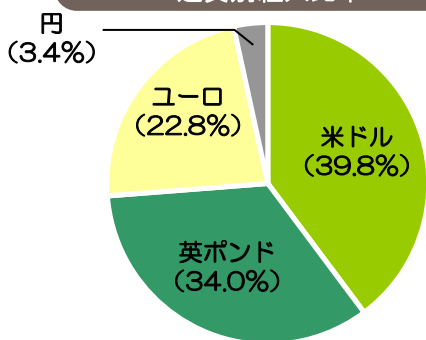
ファンド情報提供資料 / データ基準日: 2016年4月6日

本資料は、当ファンドの受益者に運用状況をご報告するための資料です。当ファンドの受益者以外の方への提供は行いません。

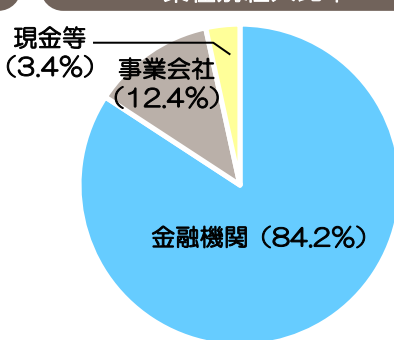
平素より、「国際金融機関債ファンド(為替ヘッジあり)プラス2016-03」をご愛顧賜り、厚く御礼申し上げます。当ファンドは2016年3月29日の設定日以降、市場環境を勘案しつつ、ポートフォリオの構築を行いました。つきましては、2016年4月6日現在のポートフォリオの状況、今後の運用方針等についてご報告申し上げます。今後とも引き続き、当ファンドをご愛顧賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

### 「国際金融機関債ファンド(為替ヘッジあり)プラス2016-03」のポートフォリオ (2016年4月6日現在)

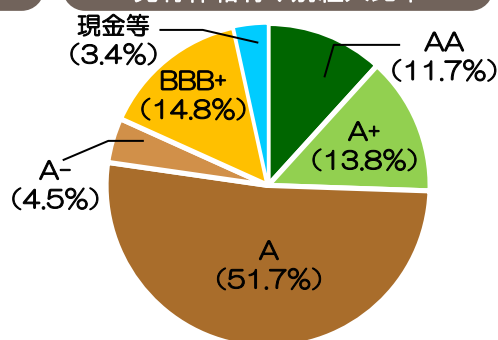
#### 通貨別組入比率



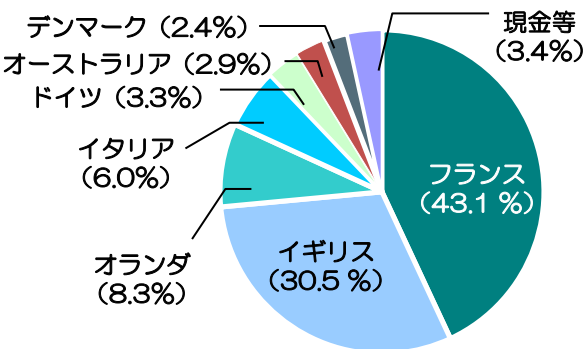
#### 業種別組入比率



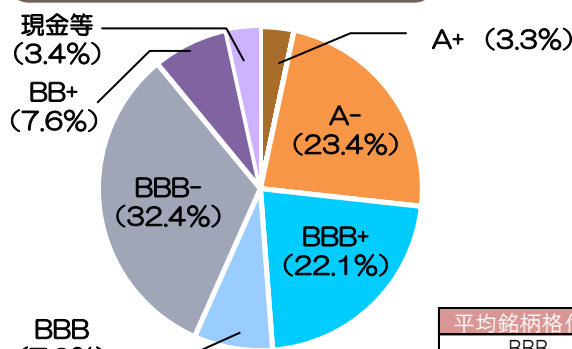
#### 発行体格付け別組入比率



#### 発行体国別組入比率



#### 銘柄格付け別組入比率(ご参考)



平均銘柄格付け  
BBB

#### ポートフォリオ特性

最終利回り	4.01%	平均発行体格付け	A格
直接利回り	6.71%	銘柄数	26銘柄
平均残存年数	2.91年	発行体数	19発行体
信託期間内に満期日および繰上償還日が到来する証券の比率	96.6%	為替ヘッジコスト(参考値)	0.32%

#### 発行体別組入比率

G-SIFIsに選定された金融機関およびその関連会社	55.5%
その他	44.5%

※最終利回り、平均残存年数および信託期間内に満期日および繰上償還日が到来する証券の比率は、次回の繰上償還の可能日に償還されるものとして計算しています。※為替ヘッジコスト(参考値)は、簡便的に日本と各国・地域の短期金利差をポートフォリオの通貨別組入比率で加重平均して算出しています。短期金利は、日本、米国、イギリス、ユーロ圏とも1ヵ月LIBORを使用しています。※為替ヘッジコストは金利変動、為替市場の需給等の状況やその他の諸条件の変化により大きく変動する可能性があります。※格付けは、発行体格付けおよび銘柄格付けともに、S&P社、Moody's社、Fitch社の3社のうち、最も高い格付けを採用し、S&P社の表示方法で記載しています。(出所)Bloomberg※平均発行体格付け・平均銘柄格付けは、基準日時点においてポートフォリオが保有している証券の発行体格付けおよび銘柄格付けをポートフォリオに対する当該証券の組入比率で加重平均したものであり、当ファンドに係る格付けではありません。※発行体については、関連会社(自己資本拡充の目的で設立する特別目的会社等を含む)が発行する証券に投資する場合、当該関連会社の親会社等に当たる金融機関を含めて計算しています。※四捨五入の関係で各組入比率において合計しても100%にならないことがあります。※通貨別組入比率は為替ヘッジ前の比率です。

■上記は過去の実績・状況です。本見通ししないし分析は作成時点での見解を示したものであり、将来の市場環境の変動や運用状況・成果を示唆・保証するものではありません。また、税金・手数料等を考慮していません。

## 国際金融機関債ファンド(為替ヘッジあり)プラス2016-03

## 組入上位銘柄(2016年4月6日時点)

	銘柄名	証券種別	国	クーポン	償還日	銘柄格付け	発行体格付け	組入比率
1	CNPアシュアランス	劣後債・優先証券等	フランス	6.875%	2019/07/18	BBB+	A	7.0%
2	ソシエテ ジェネラル	劣後債・優先証券等	フランス	9.375%	2019/09/04	BB+	A	6.3%
3	イタリア電力公社	劣後債・優先証券等	イタリア	6.500%	2019/01/10	BBB-	BBB+	6.0%
4	バークレイズ・バンク	劣後債・優先証券等	イギリス	14.000%	2019/06/15	BBB-	A	5.5%
5	ラボバンク	劣後債・優先証券等	オランダ	11.000%	2019/06/30	BBB	AA	5.5%

※表示桁未満の数値がある場合、四捨五入で処理しております。

※償還日は、繰上償還条項が定められている証券については、次回の繰上償還の可能日を記載しています。

※格付けはS&P社、Moody's社、Fitch社の3社のうち、最も高い格付けを採用し、S&P社の表示方法で記載しています。(出所)Bloomberg

## 投資環境

年明けから2月中旬にかけては、中国経済の減速懸念や中東の地政学リスク、原油安への警戒感などを背景に投資家センチメント(心理)は悪化し、リスク回避姿勢が強まりました。その後、原油価格に下げ止まりの兆しが見られたことや、3月には欧州中央銀行(ECB)が市場予想を上回る追加金融緩和策を発表したことなどが好感され、投資家センチメントは大きく回復しました。

こうした中、欧米金融機関の劣後債・優先証券市場では過度なリスク回避姿勢が弱まり、見直し買いの動きが見られたことなどにより、スプレッド(国債との利回り差)は縮小しました。

市場では一時、在庫が減少し需給がひっ迫した状況となったことや、類似ファンドの設定が控えていたこと等を考慮し、タイミングを図りながら柔軟に組入銘柄や組入比率を決定し、速やかにポートフォリオの構築を進めました。

## ポートフォリオの現状(2016年4月6日時点)

個別企業の業績や財務内容、バリュエーション(割安感)等の判断を基本に銘柄選定および組入比率を決定し、ポートフォリオを構築しました。その結果、ポートフォリオの銘柄数は26銘柄、最終利回りは4.01%、平均残存年数は2.91年となりました。また、G-SIFIsに選定された金融機関およびその関連会社が発行する証券への投資比率は、純資産総額の50%以上となる55.5%としました。

証券種別では、劣後債・優先証券等を96.6%と高位に組入れました。また、業種別では事業会社が発行する証券への投資比率を、純資産総額の30%以下となる12.4%としました。銘柄選定においては、発行体の過去のコール(繰上償還)実績、コールに対する経営スタンス、経済合理性などを総合的に勘案し、組入れの可否および組入比率を検討・調整するとともに、ポートフォリオ全体での利回り向上を図りました。

ユーロ建、英ポンド建、米ドル建の証券については、対円での為替ヘッジ取引を実施しました。

※上記は、作成基準日時点における市場環境もしくは運用方針等について記載したものであり、将来の市場環境の変動等により当該運用方針が変更される場合があります。

## 本資料に関してご留意頂きたい事項

- 本資料はファンドの運用状況に関する受益者への情報提供を目的に三菱UFJ国際投信が作成した資料であり、金融商品取引法に基づく開示資料ではありません。本資料は投資勧誘を目的とするものではありません。
- 本資料の内容は作成時点のものであり、将来予告なく変更されることがあります。
- 本資料は信頼できると判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性等を保証するものではありません。
- 投資信託は、預金等や保険契約とは異なり、預金保険機構、保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。銀行等の登録金融機関でご購入いただいた投資信託は、投資者保護基金の補償の対象ではありません。
- 投資信託は、販売会社がお申込みの取扱いを行い委託会社が運用を行います。